

区(自治会) の活動に ご理解を

町内最大の住民組織として地域住民同士の親睦を深めると同時に、地域の生活環境整備のため、各地域で区(自治会)活動が活発に行われています。このような区の活動と行政とのパイプ役を果たしているのが区長であり、その地域づくり・コミュニティづくりの活動をお手伝いするのが行政の役割です。

コミュニティと自治会活動

高度経済成長以降、私たちの生活水準は物質的に潤いました。しかし、その反面、都市化、情報化が進み生活意識や生活様式が変化し、かつての地域の人間関係や共同生活意識は失われ、住民の連帯感はとかく希薄になっています。

そのようななかで、人と人のつながりを大切にしていこうと「人間の回復の場である」や「自治意識醸成の基礎」という意味で、「コミュニティ」という言葉が様々な場で使われ、一般的には「近隣社会」や「地域社会」と表現されています。

昔のように、「向こう三軒両隣」と言われたような親しい近所づきあいが少なくなった今日、より一層住みよい町にするため、各地域の「コミュニティづくり」が叫ばれ、身近な近所づきあいを基本とする区のみとまりがその核となって推進されるものと考えられています。



区の役割

私たちの生活は、個人のみで成り立つものではなく、コミュニティにおける潤いのある人間関係と、上下水道や道路、保健衛生、防災、ごみ処理など共同的施設・機能が整備されてはじめて満たされると言われています。

みんなが住みよく誇りに思える町づくりを進めるためには、行政と協力して行う共同施設・機能の整備の部分から、より一層前進して、みんなが参加できる楽しい文化・レクリエーション活動や健康づくり、地域での福祉活動など「自分たちの町は自分たちの手で」という自主的な考え方で実践していくことが求められています。

そういった意味合いから、コミュニティづくりは町づくりの基礎であり、コミュニティにおける活動を実質的に推し進めていくのが、住民自治組織である区の大きな役割です。

区の活動

区は一部の人たちによって作られたものではなく、そこに住む人々の総意で作られ、活動し、成長させていくものです。地域の発展を図るためには、何よりもそこに住む人々の積極的な参加がなければ成り立ちません。

区は、地域住民の様々な要望に対し、環境整備活動や福祉活動・親睦活動を行うほか、住民生活に関する行政への協力など多種多様な活動を行っています。区の主な活動としては、次のようなものがあり、この活動の経費のほとんどは区費と補助金等の収入によって賄われています。

- ①区の自治活動 ②広報紙等の配布 ③各種ポスターの掲示 ④各種文書の回覧 ⑤地区一斉清掃の実施
- ⑥各種募金運動への協力 ⑦社会福祉協議会事業への協力 ⑧地区福祉事業への協力 ⑨会報の発行
- ⑩災害救護活動 ⑪防犯啓発運動 ⑫防犯灯の新設・取替・維持管理など

区と町のかかわり

区は、地域の方々がその地域に根ざした自主的な自治活動を行う団体と位置づけられており、住みよい町づくりを進めていくためには、区と町が役割を分担し合いながら協力していく必要があります。

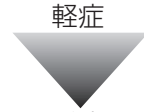
熱中症について

熱中症とは、運動や周囲の温度状況による身体への障害の総称で、軽症から致命的なものまであります。熱射病や日射病と呼ばれているものは、重症の熱中症のことを言います。

1. こんな人は注意してください！

- ①運動する人、屋外で働く人。
- ②発汗や体温の調整機能を抑える働きの薬を服用している人。
- ③持病のある人、肥満気味の人。
- ④暑さに慣れていない人。
- ⑤高齢な方や小さいお子さん。

2. どんな症状、サインが出るの？

| 分類 | 症状 | 重症度 |
|------|---------------------|---|
| I度 | めまい・失神・筋肉の硬直(こむら返り) |  軽症 重症 |
| II度 | 頭痛・吐き気・嘔吐・脱力感 | |
| III度 | 意識障害・けいれん・高体温 | |

| 見逃してはいけないサイン!! | |
|----------------|----------|
| 意味不明な言動 | 飲水が出来ない |
| 皮膚が赤く、触ると熱い | 発汗していない |
| 浅く早い呼吸 | 意識、反応がない |
| 全身のけいれん | うわごと |

3. 症状が出ている時はどうすれば良いの？

- ①涼しい環境への避難(風通しの良い日陰や冷房が効いてる室内などに避難させる。)
- ②脱衣と冷却(服を脱がせ熱の放出を助ける。皮膚に水をかけて、うちわや扇風機等で体を冷やしたり、氷などがあればタオルや布で包み、首筋や脇の下を冷やす。)
- ③水分、塩分の補給(汗をかいている場合は汗で失われた塩分も補えるスポーツドリンクや経口補水液を補水させる。)
- ④病院へ運ぶ(自力での水分補給が出来ないときは、病院に運ぶことが一番の対処方法になります。必要であれば救急車を呼びましょう。)

4. 予防するには？

- ①暑さを避ける(外出先では、日陰を歩いたり、日傘をさしたり帽子をかぶったりしましょう。屋内での熱中症を防ぐため、扇風機やエアコンを適切に使ったり、すだれやカーテンで、直射日光を防いだりして暑さを避ける。)
- ②服装を工夫する(えり元はなるべく緩めて、熱気や汗が出ていきやすいように通気し、汗を吸収してくれる吸水性に優れた素材の服や下着を着用し、太陽の光で熱を吸収して熱くなる黒色の服は避ける。)
- ③こまめに水分を補給する(暑い日には、知らず知らずのうちに汗をかいているので、こまめに水分を補給する。)